

第2章 まとめ

第1節 平安時代

平安時代の遺構は、浅間B軽石下水田跡を確認し、南北畦畔7条、東西畦畔10条を確認した。

第2節 中世

この時期の遺構は、1号掘立建物跡を確認している。東西柱間1.8m、南北柱間1.7~2.0mを測り、柱穴間は南北方向にくらべ東西方向に長く造られている。南北柱穴は調査区外に続く可能性が考えられる。基本層序の土壌堆積状況から中世の遺構確認面（生活面）はⅢ層上と考えられる。

第3節 近世

近世の遺構は確認できなかったが、栄町Ⅱ遺跡から浅間山噴火（1783年）に伴う災害復旧溝（浅間A軽石処理溝）を検出していることから、本遺跡地に続いていたと考えられる。

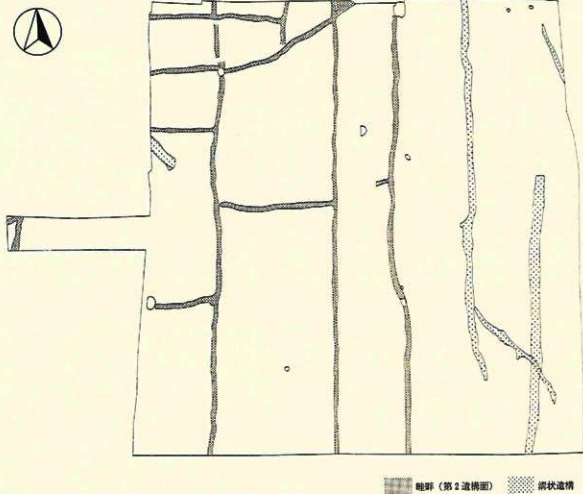
第4節 浅間B軽石下水田跡について

検出された浅間B軽石下水田畦畔は、潰れた台形を呈し、高さ5~10cmを測る（第8図）。畦畔検出状態は悪く、特に調査区北側では確認できていなかったため、整理作業時に遺構写真・調査区コンタ図（5cm間隔）を用いて再度遺構精査を行った。

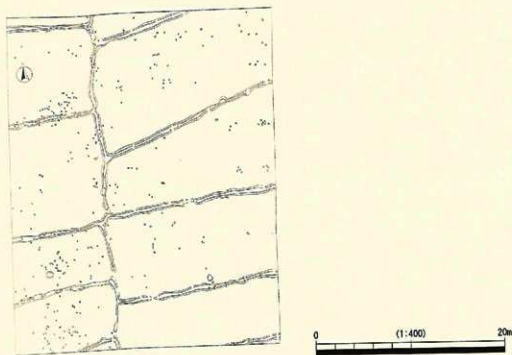
調査区北から南西に向かって約15cm下がり、等高線92.25m辺りで地形が変化している。栄町Ⅰ遺跡の畦畔は長軸を南北方向に造り、岩押遺跡Ⅰの畦畔は東西方向に造っている（第9図）。本遺跡地では地形の変化に伴い東西方向と南北方向の畦畔が確認できている。（第7図）。また、調査区西の等高線92.25~92.30mは、南北方向の大畦畔と考えられる（第7図）。今回確認された水田跡では1108年のAs-B軽石降下時に耕作は行われていなかったと考えられる。

参考文献

- 高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会 1994『岩押町Ⅰ遺跡』
- 高崎市遺跡調査会 1996『栄町Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
- 高崎市市史編さん委員会『新編 高崎市史 通史編1』
- 高崎市市史編さん委員会『新編 高崎市史 資料編2』



米町遺跡発掘調査報告書第6図 米町遺跡I遺跡発掘調査範囲図 縮尺400分の1に変更



岩押町I遺跡 抄録図2 岩押町I遺跡全体図 縮尺400分の1に変更

第9図 米町遺跡I、岩押I遺跡 浅間B軽石下陸畔図



調査前風景（南西から）



重機による表土掘削（南西から）



試掘調査 重機による表土掘削（北から）



1区 畦畔検出状況（東から）



基本層序（北から）



試掘調査 基本層序（東から）

PL. 2



1区西 畦畔検出状況（南から）



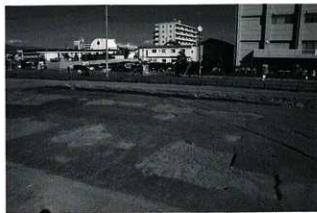
1区完掘①（南東から）



1区完掘②（東から）



2区畦畔検出状況（西から）



2区完掘①（西南から）



2区 完掘②（南から）



2区完掘③（北西から）



重機による埋め立て作業風景（北東）